



現代では、現在地や目的地までのルートをGPS(全地球測位システム)で簡単に検索できます。これらを利用できるのも、全国を測量して正確な地図を作成してくれた先人の努力あってこそです。

日本で初めて実際の測量による詳細な地図が作成されたのは江戸時代末頃、千葉県出身の伊能忠敬によるものでした。1800年に幕府に願い出て、現在の北海道を測量する許可を得たのを皮切りに、忠敬は以後17年、計9回におよぶ全国測量の旅をしました。

その中で、忠敬が蒲郡付近を訪れたのは、1803年4月14日(16日の3日間で、複雑な海岸線を測量するために、歩いていく陸上組、船を利用する海上組に分かれて実測しました。この日付は旧暦です)、現在の暦でいうと6月

## 伊能忠敬の蒲郡測量



伊能忠敬蒲郡測量 宿泊地跡の石碑

初め頃あたりにあります。梅雨入り前後の時期ということもあってか、宿泊した2晩ともあいにくの曇り空で天体観測をしなかったことが忠敬の測量日記に記されています。それからちょうど200年の節目にあたる平成15年4月、記念碑建立委員会の手によって、忠敬が宿泊した三谷・西浦それぞれの宿泊地跡に記念の石碑が建立されました。

伊能忠敬が、測量に必要な技術を学ぶために江戸に出たのは、50歳で隠居した翌年のこと。現代でいうと定年を迎えてから新たな知識や技術を学び始めたこととなります。「六十の手習い」ということわざもありますから、学問を始めるとの遅いということはありません。忠敬の学びへの姿勢を見習いたいものです。

潮だまりをのぞくたびに、海の生きものの多様さに驚かされます。犬猫やミミズ、昆虫など、陸上でもさまざまな動物を見ることができ、海にすむ動物の多様さは、それを上回っています。陸の動物は1匹2匹、1頭2頭と数えるものがほとんどですが、海の動物は一筋縄ではいきません。透けるほど薄いペラペラのヒラムシは1枚2枚、アサリやハマグリは1個2個、岩と見分けがつかない海綿やフジツボなどは数え方にも迷うほど。姿かたちの多様さを反映しています。

動物は、からだのつくりや誕生のしくみによって「節足動物」「軟体動物」などいくつものグループ

### 生きものを教える楽しみ



### 多様性ばんざい♪



に分けられています。それらのご先祖のほとんどは、約5億年前の海に登場しました。現代の私たちを取りまく生物多様性は、5億年の時を生き延び、育まれてきたものなのです。小さな潮だまり、実は意外と大スケールの謎と感動の宝庫です。

